

茅ヶ崎市の統一的な基準による財務書類（令和2年度 一般会計等）概要

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 公営住宅、地区集会所など	1514億3,574万円	1 (1) 地方債 613億3,871万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	557億1,615万円	(2) 退職手当引当金 87億4,407万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	8億7,337万円	(3) その他の固定負債 15億2,829万円
	(4) 投資その他の資産	68億5,465万円	2 (1) 賞与等引当金 10億613万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	70億5,725万円	(2) その他の流動負債 54億5,772万円
	(2) 基金、未収金など	56億9,789万円	負債合計 780億7,492万円
資産合計		2276億3,505万円	負債及び純資産合計 2276億3,505万円
			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
			純資産合計 1495億6,013万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	38億4,341万円
本年度資金収支額	28億9,945万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	58億7,794万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△34億9,454万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	5億1,606万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	3億1,439万円
本年度末現金預金残高	70億5,725万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	1470億2,645万円
本年度変動高	25億3,368万円
△純行政コスト	△897億9,673万円
財源 (市税、地方交付税、 国・県補助金)	923億2,666万円
資産形成への充当	375万円
その他	0
本年度末純資産残高	1495億6,013万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和3年3月31日現在人口 242,371人）

資産 = 94万円 負債 = 32万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 65.7%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）……… 62.2%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和2年度末現在：償却資産取得価額等： 1955億2,042万円 減価償却累計額： 1216億9,344万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）……… 52.2%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

市の令和2年度財政運営の総括

① 業務活動収支 58億7,794万円（毎年度継続的に収入、支出される性質のもの）

② 投資活動収支 △34億9,454万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 5億1,606万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和2年度の資金収支は 28億9,945万円

前年度資金残高との合計は 70億5,725万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	917億1,147万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	145億7,887万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	218億1,277万円
その他の業務費用 支払利息など	6億2,304万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	546億9,680万円
経常収益	22億2,985万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	894億8,162万円
臨時損失 災害復旧費など	5億683万円
臨時利益 資産売却益など	1億9,173万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	897億9,673万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

茅ヶ崎市の統一的な基準による財務書類（令和2年度 全体会計）概要

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 公営住宅、地区集会所など	1595億931万円	1 (1) 地方債 948億9,718万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	1186億9,309万円	(2) 退職手当引当金 104億5,367万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	82億2,383万円	(3) その他の固定負債 244億7,589万円
	(4) 投資その他の資産	65億674万円	2 (1) 賞与等引当金 13億2,998万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	126億1,023万円	(2) その他の流動負債 104億7,552万円
	(2) 基金、未収金など	85億273万円	負債合計 1416億3,224万円
資産合計		3140億4,594万円	負債及び純資産合計 3140億4,594万円
			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
			純資産合計 1724億1,370万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	85億2,043万円
本年度資金収支額	37億7,542万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	94億2,201万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△41億9,695万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△14億4,964万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	3億1,439万円
本年度末現金預金残高	126億1,023万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	1686億778万円
本年度変動高	38億592万円
△純行政コスト	△1269億3,416万円
財源 (市税、地方交付税、 国・県補助金)	1307億3,633万円
資産形成への充当	375万円
その他	0
本年度末純資産残高	1724億1,370万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和3年3月31日現在人口 242,371人）

資産 = 130万円 負債 = 58万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 54.9%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）…… 52.2%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和2年度末現在：償却資産取得価額等： 3057億8,119万円 減価償却累計額： 1595億9,155万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 82.1%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

市の令和2年度財政運営の総括

① 業務活動収支 94億2,201万円（毎年度継続的に収入、支出される性質のもの）

② 投資活動収支 △41億9,695万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △14億4,964万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和2年度の資金収支は 37億7,542万円

前年度資金残高との合計は 126億1,023万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	1411億3,408万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	216億3,485万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	308億9,437万円
その他の業務費用 支払利息など	18億9,044万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	867億1,441万円
経常収益	145億1,905万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	1266億1,504万円
臨時損失 災害復旧費など	5億8,147万円
臨時利益 資産売却益など	2億6,234万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	1269億3,416万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

茅ヶ崎市の統一的な基準による財務書類（令和2年度 連結会計）概要

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 公営住宅、地区集会所など	1595億1,643万円	1 (1) 地方債 948億9,718万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	1186億9,309万円	(2) 退職手当引当金 105億612万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	82億4,735万円	(3) その他の固定負債 244億8,374万円
	(4) 投資その他の資産	68億9,202万円	2 (1) 賞与等引当金 13億2,998万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	142億1,753万円	(2) その他の流動負債 124億3,934万円
	(2) 基金、未収金など	111億6,692万円	負債合計 1436億5,636万円
資産合計		3187億3,334万円	負債及び純資産合計 3187億3,334万円
			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
			純資産合計 1750億7,698万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	93億9,714万円
本年度資金収支額	44億9,933万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	102億3,979万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△42億4,377万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△14億9,669万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	3億1,439万円
本年度末現金預金残高	142億1,753万円

③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	1704億1,259万円
本年度変動高	46億6,439万円
△純行政コスト	△1527億6,365万円
財源 (市税、地方交付税、 国・県補助金)	1574億1,024万円
資産形成への充当	1,764万円
その他	15万円
本年度末純資産残高	1750億7,698万円

市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和3年3月31日現在人口 242,371 人）

資産 = 132万円 負債 = 59万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 54.9%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）…… 52.2%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和2年度末現在：償却資産取得価額等： 3058億4,871万円 減価償却累計額： 1596億3,330万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 82.1%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

市の令和2年度財政運営の総括

① 業務活動収支 102億3,979万円（毎年度継続的に収入、支出される性質のもの）

② 投資活動収支 △42億4,377万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △14億9,669万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和2年度の資金収支は 44億9,933万円

前年度資金残高との合計は 142億1,753万円

② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	1680億4,196万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	221億7,171万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	314億6,000万円
その他の業務費用 支払利息など	22億528万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	1122億497万円
経常収益	155億9,507万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	1524億4,688万円
臨時損失 災害復旧費など	5億8,338万円
臨時利益 資産売却益など	2億6,662万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	1527億6,365万円

● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。